

気になる家電の故障と使い方 たかがエアコン されどエアコン

「春過ぎて夏来にけらし……」と歌った人がおり、時代を超えて名歌と称えられてきたが……
毎年、五月から真夏のような暑さになることが多くなってきた。五月から「真夏日」とか「30℃以上」とか騒がれると、「夏来にけらし」などと悠長なことを言っではいられなくなってきた。
毎年、知人・友人・近所の人などから、「エアコンが涼しくならなくなった」とか「エアコンが壊れてしまった」と言う話を聞くのは6月末から7月になってからで、気の毒な人は8月になってから故障してしまい、買い替えに1~2週間を要したという話も聞いたことがある。
4月末にラジオを聞いていたら、「そろそろエアコンの動作確認をしておきましょう」と言っていた。

<1> リモコンの故障

冷房専用のエアコンは冬の間は使わないので、半年近く通電されない。その間にリモコンの電池が消耗してしまい、いざ本番となった時には役に立たない。リモコンの故障の原因として、よくあるのは

① リモコンの動作確認方法

ほとんどのリモコンでは「赤外線」を使って本体との信号のやりとりをしている。

リモコンの赤外線発光部にデジタルカメラを向けると、カメラの液晶画面で赤外線を確認できる。デジタルカメラが赤外線を「目に見える画像」にしてくれるので、便利。

② 電池切れ

赤外線が発光していない場合、次に考えられるのは「電池の消耗」

テスターや電池チェッカーなどの確認用の機器があれば、電圧の確認が可能。

確認用の機器がない場合は、電池を交換して見ても良い。

リモコンの電池ボックスに書いてあるがほとんどのリモコンは「1.5Vの電池」と書いてあるので、充電電池(1.2V)は使わないこと。

③ 電池の液漏れ

電池が液漏れしていたら、漏れている液をきれいに拭き取る。漏れ出た液によって金属類が錆びてしまうので、致命的な故障になりやすい。アルコールなどできれいにふき取ることが必要。

④ 押しボタンスイッチの動作不良

リモコンの特定の操作ボタンだけが動作しない場合は、ボタンスイッチに原因があることが多い。

リモコンを解体して、基板上の押しボタンスイッチのクリーニングをすれば解決することが多いが、解体できない構造になっているものもある。また、基板上のプリント回路が損傷していることもある。

リモコンを台所の油性の汚れの近くや、和室のハウスダストの中に放置してあると、汚れによるスイッチの接触不良が起きやすい。

⑤ リモコンが使えないときの対処方法

リモコン操作可能なエアコンの場合、エアコン本体(室内機)に「手動スイッチ」が付いているので手動操作での運転は可能である。取扱説明書に書いてあるので、あらかじめ確認しておくこと。

⑥ リモコンを買う

リモコンが修復可能な場合、代替品を買うことになる。取扱説明書に型番などが示されている。どのメーカーのエアコンにも対応している「汎用リモコン」が売り出されているが、自分のエアコン

が対象機種になっているかどうかを確認する必要がある。自分のエアコンの「メーカー名」「商品名」「商品型番」がわからないと、買い物ができない。



<2> 室内機について

「エアコンが冷えにくくなった」「風量が弱くなった」という場合、フィルターの目詰まりや、熱交換器へのカビや汚れ付着が考えられる。

「フィルターの清掃」は使用者の責任範囲なので、適当な周期で実施する方が良い。取扱説明書に方法が書いてあるので、平和な時によく読んでおくこと。

「熱交換器のカビや汚れ」は、最近のエアコンでは、「自動清掃」の機能が付いている機種が多くなってきたが、古い機種の場合は洗浄液などで汚れを落とす必要があるが、取扱説明書に示された注意事項を守る必要がある。

「送風される風がかび臭い」場合は、「熱交換器の汚れ」のほかに「送風機のファンの汚れ」によることが多いが、ファンの深部の清掃は困難なことが多い。部屋から吸い込む空気の汚れをエアコンの中に入らせないために、フィルター清掃が必要になる。

<3> 室外機について

室外機は据え付け担当の技術者が設置するので、使用者側では手を出せないが、故障の未然防止のための目の付け所がいくつかある。業者に任せっぱなしにせず、口を挟んだ方が良いこともある。

*室外機は「水平・垂直に設置」されているか。

大きなモーターが休みなく回り続けている。重量のある回転物が水平・垂直に設置されているか否かは、故障の可能性や寿命につながるので注意が必要。人間が、姿勢が悪いと様々な故障の原因になりやすいのと同じ。

*風通しは良いか

室外機の設置方法は取扱説明書に書いてある。壁からの距離(前・後・右・左・上)の許容範囲が示されている。室外機は、室内の熱気を冷やして戻す装置で、室外機ファンの力を借りて通気による冷却をしている。(熱交換器)

室外機の吸入側・排気側に障害物があると、熱交換が正しく行われず、冷房が効かなくなるだけでなく、送風機への負担も大きくなり発熱の可能性もある。

*遮光・遮熱

直射日光は熱交換の妨げになるので、設置する時に配慮が必要。やむなく南面の日当たりの良い場所に設置する場合は、ヨシズのような通気性のあるもので日を遮ってやると良い。室外機に日よけシートを貼り付けている家を見かけるが、密着により通気性が損なわれるので、逆効果。

以上